

# 外国人のための 無料専門家 相談会実施報告



開催日時：2020年2月8日(土)  
13:00~16:00  
会場：セシオン杉並

都内の自治体でリレー開催している無料相談会。杉並区では28名の方が相談に訪れました。

**専門家** 弁護士、行政書士、社会保険労務士、  
税理士、行政相談委員、臨床心理士、公認心理師  
**通訳ボランティア** 7言語  
英語、中国語、韓国・朝鮮語、タイ語、ポルトガル語、  
ネパール語、ベンガル語

相談者数 28名

相談件数 34件

国籍・地域	人数
日本	3
イギリス	3
アメリカ	3
フランス	3
中国	3
インド	2
マレーシア	2
カナダ	1
台湾	1
バングラデシュ	1
ルーマニア	1
ネパール	1
ベトナム	1
ブラジル	1
パキスタン	1
シンガポール	1
総数	28

専門家別対応件数	件数
専門家	件数
弁護士	12
行政書士	13
社会保険労務士	4
税理士	2
通訳	1
総数	32

相談内容別件数	件数
内容	件数
在留資格・ビザ・旅券	14
保険・年金	4
労働・賃金・解雇等	3
結婚・離婚・家族等	2
税金	2
交通事故・損害補償	2
借金・保証	2
住宅・不動産	2
医療・健康・心理相談	1
対人トラブル	1
生活習慣	1
総数	34

## 2020年度 杉並区交流協会の主な事業予定

9月19日(土)	第8回まるごと台湾フェア	1月31日(日)	外国人のための無料専門家相談会
11月7日(土)・8日(日)	すぎなみフェスタ参加	3月6日(土)	日本語スピーチ大会
11月28日(土)	海外文化セミナー		

〈その他〉外国語入門講座、語学ボランティアスキルアップ講座、交流自治体訪問ツアー、台湾友好親善ツアーなど  
※各イベントの開催予定は変更となる可能性がありますので、ご了承ください。

## Event Information from SACE 交流イベント情報

### ◆ 交流協会からのお知らせ ◆

● **なみすけフェア**  
新発売のなみすけグッズを取り揃えたフェアを開催します!  
◇日時：4月1日(水)～15日(水)  
9:00～16:30  
◇場所：区役所1階 コミュニカルショップ

### ◆ 国内交流自治体からのお知らせ ◆

● **小千谷ふるさと市場**  
新潟県小千谷市の新鮮野菜や魚沼産コシヒカリなどの販売  
◇日時：4月20日(月)、7月13日(月)  
10:00～14:00  
◇場所：区役所中杉通り側入口前

● **デザインマンホール蓋展**  
各交流自治体のカラーデザインマンホール蓋の展示  
◇日時：4月20日(月)～5月1日(金)  
8:30～17:00  
◇場所：区役所1階ロビー

● **吾妻の朝市**  
群馬県吾妻町の新鮮な農産物の販売  
◇日時：4月23日(木)、5月28日(木)、6月25日(木)  
10:00～14:00  
◇場所：区役所中杉通り側入口前

● **おちやフェア**  
新潟県小千谷市の笹団子や小千谷そば(へぎそば)。

魚沼産コシヒカリなどの販売  
◇日時：4月26日(日)、5月24日(日)、6月28日(日)  
11:00～13:30  
◇場所：小千谷学生寮(井草4-16-23)

● **北塩原村観光物産展**  
福島県北塩原村の高原野菜や山塩、花豆などの特産品販売と風景写真の展示  
◇日時：5月21日(木)～22日(金)  
21日：13:30～18:00  
22日：10:00～15:00  
◇場所：区役所中杉通り側入口前(物産展)  
区役所1階ロビー(写真展)

● **名寄市アスパラまつり・写真展**  
北海道名寄産のグリーンアスパラ等の販売と風景写真の展示  
◇日時：6月3日(水)～5日(金)  
10:00～14:00(物産販売)  
8:30～17:00(写真展)  
◇場所：区役所中杉通り側入口前(物産展)  
区役所1階ロビー(写真展)

● **青梅市写真展**  
青梅市の観光写真展  
◇日時：6月8日(月)～6月19日(金)  
10:00～15:00  
◇場所：区役所2階 区民ギャラリー

● **青梅市観光展**  
青梅市の特産品販売  
◇日時：6月15日(月)～16日(火)  
10:00～15:00

◇場所：区役所中杉通り側入口前

● **南伊豆町物産展**  
伊勢海老の味噌汁試食サービスのほか、干物や海藻など静岡県南伊豆町の特産品販売  
◇日時：6月22日(月) 10:00～14:30  
◇場所：区役所中杉通り側入口前・1階コミュニティショップ前

● **武者絵展**  
武者絵等の展示  
◇日時：6月23日(火)～7月3日(金)  
8:30～17:00  
◇場所：区役所2階 区民ギャラリー

● **「相馬野馬追」写真展**  
◇日時：6月29日(月)～7月3日(金)  
8:30～17:00  
◇場所：区役所1階ロビー

※物産展はいずれも雨天実施・売り切れ次第終了となります。マイバッグ(買い物袋)をご持参ください。

問合せ：区役所文化・交流課交流推進担当  
☎03-3312-2111(代表)

「交流ニュース」へのご意見・ご要望・メッセージなどをお寄せください。お待ちしております。

## 交流協会の会員になりませんか? 杉並区交流協会では、国内・国際交流の推進をはかるために、様々なイベントを企画しています。あなたも会員になって、楽しく交流しませんか?

**年会費**  
・個人会員 1,000円/年  
(9月以降入会の場合は初年度に限り500円)  
・法人会員 20,000円/年

**会員期間**  
入会の月から3月31日まで(当年度末)

**会員特典**

- ① イベントの情報や交流に関する情報紙[交流ニュース(年4回発行)・NEWS LETTER(年8回発行)など]をお届けします。
- ② 協会が実施するイベントに優先的に参加できる会員枠があります。
- ③ イベント参加費に会員割引があります。

**申込方法**  
入会希望の方は杉並区交流協会まで電話・ハガキ・Fax・E-mailにより申込書類をご請求ください。

# すぎなみ交流ニュース

Suginami Cultural Exchange News

第56号

2020年4月

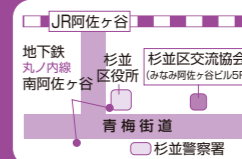
스기나미 교류 소식  
杉並的交流消息

発行：杉並区交流協会  
[Suginami Association for Cultural Exchange(SACE)]

〒166-0004 東京都杉並区阿佐谷南1-14-2 みなみ阿佐ヶ谷ビル5階  
[Minami-Asagaya Bldg. 5F 1-14-2 Asagaya-Minami, Suginami-ku, Tokyo 166-0004 Japan]  
TEL.03-5378-8833 FAX.03-5378-8844 E-mail: info@suginami-kouryu.org

<http://www.suginami-kouryu.org/>

◆年4回発行◆ 協会情報誌は区内施設窓口、区内の駅広報スタンドなどに置いてあります。



HP・Facebook 随時更新!!



### 目次

第17回日本語スピーチ大会	2~3
台湾友好親善ツアー	3
外国人のための相談会 2020年度の主な事業予定 他	4

## ウズベキスタンチームが高円寺体育館で事前キャンプ

東京2020オリンピックに出場を予定しているウズベキスタンのボクシングチームが、高円寺体育館で事前キャンプを行うことが決まり、2月25日(火)に杉並区長とガイラト・ファジロフ駐日大使の間でホストタウン交流宣言署名式が行われました。リオデジャネイロ大会でも、いくつものメダルを獲得している強豪国です。

そして、ウズベキスタンの魅力を感じてもらうために、2月29日(土)と3月2日(月)に、杉並区役所1階ロビーでウズベキスタン出身の写真家フスニディン・アト氏による写真展「シルクロードの十字路 ウズベキスタン」が開催されました。ウズベキスタンは「ウズベク人の土地(国)」という意味で、周囲にはカザフ人、クルグス人、タジク人、トルクメン人などの土地(国)があります。

古くは、オアシス隊商民が活躍したシルクロードの要衝として、サマルカンドが商業・学芸の中心になっていました。現

在は、タシュケントが首都で、イスラム系の国です。人気のスポーツは、第一がサッカーで、第二がクラッシュ(レスリングや柔道に似た民族格闘技)、そして、第三がボクシング・レスリング・柔道です。ボクシングチームの事前キャンプは、大会直前の7月7日(火)～23日(木・祝)で、選手・スタッフ含め約40名が訪れる予定です。

また、イタリアのビーチバレーボールチームの事前キャンプは、7月14日(火)～22日(水)に永福体育館で、パキスタンの陸上・水泳チームの事前キャンプは、7月21日(火)～23日(木・祝)に済美山運動場・区内民間スポーツジムで実施される予定です。

なお、7月18日(土)には、杉並で聖火リレーが行われ、それを記念しスタート地点となる桃井原っぱ公園で「聖火の出発を祝うセレモニー」が予定されています。(広報O)

ウズベキスタン写真展



ウズベキスタンの署名式

今後、日本フィルハーモニー交響楽団と区が協力して、杉並区で事前キャンプを行うオリンピック選手への応援曲を創作する予定です。完成した曲は、7月の聖火の出発を祝うセレモニーなどで披露します。お楽しみに。

## 杉並区文化・交流課オリンピック・パラリンピック連携推進担当インタビュー

● **仕事の内容** 杉並区はイタリア、ウズベキスタン、パキスタンとホストタウン交流を推進していく第一歩として、各国のオリンピック選手の事前キャンプ受け入れを決定しました。受け入れ期間中は公開練習や選手との交流イベントなどを実施する予定です。また7月18日(土)はオリンピック聖火ランナーが区内を走ります。私たちオリパラ担当は、これらイベント等の企画・運営およびそれに伴うボランティアとの協働、各国との調整や都および組織委員会との連携を行っています。区民と一緒に大会を盛り上げる推進役として、区民参加によるオリンピックの実現に取り組んでいます。

● **杉並区民へのメッセージ** 4月からは、オリンピック100日前イベントを4月13日(月)～17日(金)区役所1階ロビーで開催するほか、ボランティア向け講座など様々な取り組みを行っていきます。ぜひご参加いただき、一緒にオリンピック・パラリンピックを楽しみましょう。(広報M)



(左)須田さん、(右)三宅さん

# 第17回 外国人による日本語スピーチ大会

2020年3月7日 13:30~17:00 於：杉並区役所 第4会議室

日本で生活している外国人の思いを聞き、日本人との交流を深める目的で開催してきた日本語スピーチ大会ですが、今年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一般の観覧をお断りする中での開催になりました。7カ国10名のスピーチは例年どおり素晴らしく印象に残るものばかり。内容と構成、日本語の運用能力、表現力などを踏まえた審査の結果、最優秀賞1名、優秀賞2名、審査員特別賞2名が選ばれました。このレポートでは、最初に入賞者のスピーチ内容を要約し、審査員と入賞者のインタビュー形式の講評を含めた全体の印象についてお伝えします。(広報T)

## 入賞者のご紹介



### 【最優秀賞】ニアン チャンネットさん「お父さん、先生、もう変わったよ」

ニアンさんは小学3年生まで、タバコを吸ったり、お酒を飲んだり、毎年留年してしまうなど、先生やお父さんを困らせる「問題児」でした。そんなニアンさんの人生の転機になったのが高校3年生の時に会った日本語です。カンボジア人と日本人の先生から日本語だけでなくどのように生きるかを学び、日本留学の夢を実現しました。

日本での生活は「一日一回のご飯も食べられない」厳しい時もありました。学ぶことで、社会や人生について深く考えられるようになり、自分の成長を実感しています。スピーチのタイトルには、人生の転機を与えてくれた父親と日本語の先生への感謝を込めました。帰国したらカンボジアの人たちに自分の体験を伝え、日本とカンボジアの友好を深めるために役立ちたいと結びました。

### 【優秀賞】黄 偉さん「日本へきてびっくりしたこと」



成田空港に到着した黄さんをびっくりさせたのは「日本のお手洗い」。そこから黄さんの日本のトイレ事情の観察と分析が始まります。「音姫」や温かい便座を使う人を快適にするため、和式トイレを残しているのは年配者への気配りではないのか。黄さんの結論は、「日本の便利な社会は、思いやりの心でできている」というもの。

中国には「以小見大」(小さいことでも大きく見える)という言葉があります。黄さん曰く、「小さなデザインを組み合わせることで、大きく便利な環境を作り出す」ところに、日本の職人精神の力を見いだした、とまとめました。

### 【審査員特別賞】桂 融さん「私と認知症の人」



桂さんは特別養護老人ホームでアルバイトをしています。その中で認知症の入居者が「地域とのつながりがなく、地域の情報からも遮断されている」ことに気づきます。そこで、桂さんは、入居者が住んでいた阿佐ヶ谷に出かけ昔の商店街の様子などを調べました。

入居者に最近の商店街の様子を話し、昔の写真を見せると、入居者が生き生きとしてきました。普段はあまり話さないおばあちゃんが、写真をきっかけに昔話を始め、そこに、いつもはしかめっ面のおばあちゃんが笑顔で会話に入ってくるようになったのです。

「異国でも、自分らしさを発揮できるような役割を考えて、社会により積極的に関わりたい。生活したい。『なみじやない、杉並！認知症じゃない、外人じゃない、杉並の担い手！』桂さんの結びの言葉です。

### 【優秀賞】エリザベス マーシュさん「東日本大震災が教えてくれた日本とカナダの繋がり」



東日本大震災から9カ月もたった頃、ブリティッシュコロンビア(BC)州の海岸に災害のがれきが流れつくようになり、マーシュさんの思いは再び日本に向かいます。調べてみると、明治10年に初めて日本人がカナダに移住してきたことが分かりました。「日本人はカナダの発展に強く求められた人材だったので、…農業・漁業・林業・造船・工業等々日本人の力を語らずにBC州の歴史を知ることはできません。

8年の時を経てマーシュさんはALT(英語補助教員)として1年間日本に滞在するチャンスをつかみました。マーシュさんの目的はふたつ。ひとつは日本滞在中に150年前にヨーロッパ人が憧れた日本を探し出すこと、もうひとつはカナダに戻ったあとに、150年以上も前からカナダに息づいている日本文化を発見することです。

### 【審査員特別賞】ホアン ティ アインさん「変な母親、変な子供」



アインさんは6歳の娘をベトナムの親族に託して日本語学校で学んでいます。娘のことを思わない日はありませんが、たくさん悩んで決めた日本留学です。早く帰りたいという暇はありません。

日本の子どもの様子を観察しているとベトナムとの違いに気づきます。日本では小さな子どもが一人で学校に通うのに驚きました。ベトナムでは小学5年生までは親が登下校に付き添います。日本は安全だからと分かってからは、電車の中で子どもたちを見るのが楽しくなりました。スーパーで子どもが一人で買い物をしていることにも驚かされます。

でも気になることも。電車の中で「早く帰ってね」という母親に、娘が「うん、分かった」と返事をしたのです。ベトナムでは子どもは親に対して丁寧語を使いますから、この場面では「はい、分かりました」と返事をします。日本からたくさん学びたいと思いますが、ベトナムのよい習慣も大切にしたいと思います。

# 台湾友好親善ツアー-2019(台東) 報告

杉並区交流協会では、2019年12月13日(金)から3泊4日で、「台湾友好親善ツアー」を行いました。4回目となる今回は、台湾南部の墾丁国家公園、台東市、台北市を訪問しました。

2日目、3日目は、昨年の親善ツアーで台湾東部の花蓮を案内していただいた花蓮・台東市在住の藤樫寛子さんに今年も案内をお願いして、墾丁のシンボルである最南端の灯台やブヌン民俗村などを見学しました。民俗村では原住民の歌や踊りを楽しみ、地元の食材を使った原住民の料理を味わいました。

一般のツアーでは行くのが難しい地域を訪ね、台湾の豊かな自然や文化に触れることができ、参加された皆さんにも満足していただきました。



台東・ブヌン民俗村にて、原住民ショーを観賞



台湾最南端の岬、鵝鑾鼻灯台へ向かう途中の美しい海岸にて



台湾唯一の中国伝統建築(四合院)が美しい墾丁ユースアクティビティセンター



墾丁にて、地元の方の案内で海岸沿いを散策

## 参加者アンケートより

ツアーで印象に残っているものは何ですか？

- 1位 ブヌン民俗村・原住民ショー
- 2位 国立海洋生物博物館 ぐらんぴ
- 3位 鵝鑾鼻灯台 (台湾最南端)

## 感想

- ◆ 墾丁のユースホステルはとても良い。自然と一体になっていて、台湾唯一の中国伝統建築様式の建物に宿泊できた事は良き思い出。
- ◆ ブヌンの食事は民族的でおいしかった。
- ◆ 台北に戻ってくるまでほとんど聞くことのできた日本語。ありきたりの場所ではなく、魅力的な所を選び抜いてくださったのだと思います。

## 印象記

日本語スピーチ大会の魅力は日本の「常識」について考えさせられることです。介護施設の認知症の人たちが地域社会から切り離されていると指摘した桂さん。バイト先で働く日本人のお母さんとの交流から、日本のお母さんの頑張りすぎに触れた李さん。怪我をしてオリンピック選手になる夢をあきらめ、日本留学という新しい夢に向かう背中を押してくれたのが、母親の「あなたならできる、信じている」という言葉だったと語ったエンフランさん。日本にいた間に日本とフランスの比較をしたいと地域の秋祭りに参加しておみこしを担いだ経験を報告したエルザさん。どう生きべきかという20歳の迷いを率直に語りながら、「死ぬ前に悲しくならないように」と結んだオユーンバトさん。日本人が美しさの基準を欧米人の容姿に求めていることを残念だと言ひ、「目が大きいとか、白い顔がほしいとか、ちょっと悲しかった」。日本人には日本人の美しさがあることに気づいてほしいと語った高校生のソフィアさん。

審査員特別賞を受賞したアインさんが6歳の娘をベトナムの親族に託してきたと語り始めた時、関係者の間に「？」マークが浮かんだようでした。審査員がその点を質問すると、アインさんは、子育てをしながら働いている中で、「もっと勉強がしたいと思ったから」、と答えました。再び会場にいた人たちの間に「？」マークが浮かんだように感じました。「母親観」の違いが浮き彫りになった瞬間でした。6歳の子どもがいるから、もっと学びたいという夢を「諦めるのか」、もう6歳になったから自分の夢に「向かおうとするのか」の違いです。核家族の日本では子育ての役割は母親に集中しがちですが、親族に支えられて子育てをするベトナムでは、子どもがいるからといって、そのことが母親が夢を諦める理由にはなりません。2019年のジェンダーギャップ指数をみるとベトナムは87位で日本は121位。男女格差は日本よりもベトナムの方がかなり小さいことが分かります。

スピーチから伝わってくるのは、発表者たちを支えているのは家族や共同体との結びつきだということです。言葉も文化も異なる日本で頑張れるのは、自分のためだけではなく、自分の努力を心から喜び誇りに思ってくれる人びととの確かなつながりがあるからなのでしょう。家族やコミュニティのあり方は、私たちが発表者から学ぶ大切なポイントになりそうです。



和やかな表彰式



発表者10名全員で



発表者

氏名	国籍	タイトル	氏名	国籍	タイトル
桂 融	中国	私と認知症の人	Elsa Toro	フランス	フランス人物語
Neang Channet	カンボジア	お父さん、先生、もう変わったよ	HoangThi Anh	ベトナム	変な母親、変な子供
Sophia Hawthorne	アメリカ	日本人の「きれい」なイメージ	李 冰 玉	中国	コンビニのお弁当
Oyungerel Oyunbat	モンゴル	人生	Elizabeth Marsh	カナダ	東日本大震災が教えてくれた日本とカナダの繋がり
黄 偉	中国	日本へきて、びっくりしたこと	Yadamsuren Enkhnarant	モンゴル	夢をえがくように